

澤乃井櫛かんざし美術館所蔵

## ときめきの髪飾り

## —おしゃれアイテムの技と美—

京都・祇園に生まれて、芸妓となり、後に東京で料亭の女将として活躍した岡崎智予（1924–1999）氏は、40余年かけて3,000点以上もの櫛やかんざしを中心とした装身具を収集しました。そして、そのコレクションをもとに、平成10（1998）年、銘酒「澤乃井」で知られる酒造元 小澤酒造株式会社の名誉会長 小澤恒夫氏が、東京・青梅に「澤乃井櫛かんざし美術館」を開館しました。

本展では、岡崎氏の高い審美眼で収集された櫛やかんざしをはじめ、江戸時代のさまざまな髪型の模型や、笄はこせこ（化粧ポーチ）、紅板（リップパレット）、着物、さらには矢立やたて（携帯用筆記用具）や印籠（携帯用薬入れ）など日本工芸の技や粋が凝縮された作品を精選して紹介します。

岡崎智予氏が熱き思いで収集したコレクションを散逸させることなく、見る人にときめきを届け続ける澤乃井櫛かんざし美術館の精華をこの機会にぜひご堪能ください。



桜狩嵌装象牙櫛 「芝山」銘 澤乃井櫛かんざし美術館蔵



梅花漆絵象牙櫛 澤乃井櫛かんざし美術館蔵



展覧会資料（画像）・取材をご希望の方は、[ホームページリリースページ](#)  
もしくは左記QRコード「[資料・ご取材申込フォーム](#)」からお申込みください。

## —主な出品作品—

※掲出の作品はすべて澤乃井櫛かんざし美術館蔵



### 鶯蒔絵櫛 「法橋光琳(印)」銘

琳派の画家として知られる尾形光琳は、蒔絵や小袖等の図案研究も手掛けました。簡略化した特徴的な画風による意匠「光琳模様」は、後世まで影響を与えています。



### 桜花蒔絵櫛

丸い櫛のかたちいっぱい、桜の花びらを配した大胆なデザイン。櫛の歯の周囲に連なる珠は蕊を表わしています。澤乃井櫛かんざし美術館のシンボルとしても知られる一点です。



### 渦巻蒔絵櫛 「羊遊斎」銘

朱漆の地に金蒔絵で渦巻文を大胆に描くこの櫛は、江戸時代の蒔絵師 羊遊斎の卓越したデザイン感覚が伺える一点です。当代一流の文化人と交流をしていた羊遊斎は、画家 酒井抱一とも親交が深く、抱一の下絵銘のある櫛や印籠を多数手がけました。



### 花飾り金銀珊瑚びらびら簪 (部分)

簪の先から鎖や様々な小物を飾り提げたものを、びらびら簪と呼びます。漢字では「歩揺簪」と書き、文字通り歩くと飾りが揺れて微かな音がすることから、江戸後期には振袖を着た若い女性たちの間で大流行しました。



## 日本地図蒔絵印籠

携帯用の薬入れである印籠は、数段にわかれた小さな小箱の左右両端に紐を通して緒締（おじめ）で調節し、紐の先についた根付を帯に挟んで携行します。サイズや形、デザイン、さらには螺鈿や蒔絵による華麗な装飾が施されるようになると、武士や町人が装身具として用いるようになりました。なお、印籠は、室町時代に中国から日本に伝わった際、もともと印判や印肉が納められていたことから、この名があります。



## 『女子風俗化粧秘傳』 (部分)

佐山半七丸著 速水春暁斎画 文化10年

化粧から髪型、着こなしなどが絵入りで解説された江戸時代版「女性用美容マニュアル」。へちま、椿油といった、現在でも行われているスキンケアなどの美容情報もふんだんに盛り込まれた、全3冊本。ここでは、「鼻の低きを高く見する伝」と題して、鼻の低い人も化粧の仕方を工夫すれば、鼻筋の通った高い鼻に見えるようになると説かれています。また、鼻上や鼻の両サイドには顔の化粧よりも白粉を濃く塗るように、と事細かく記されています。いつまでも美しくありたいと願う、当時の女性の必読の書だったといえるでしょう。

## — 展覧会概要 —

\*会期・営業日時等を変更する場合があります。最新情報はホームページをご覧ください。

|       |   |
|-------|---|
| 展覧会名称 | 澤乃井櫛かんざし美術館所蔵 ときめきの髪飾りーおしゃれアイテムの技と美ー  |
| 会 期   | 2024年4月27日(土)～8月4日(日)<br>[前期] 4月27日(土)～6月16日(日) [後期] 6月18日(火)～8月4日(日)   |
| 開館時間  | 午前10時～午後5時  |
| 休館日   | 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)   |
| 入館料   | 一般 1,800円 学生 1,200円   |
| 主催    | 細見美術館 京都新聞  |
| 特別協力  | 澤乃井櫛かんざし美術館   |
| 協力    | 芸艸堂   |
| 助成    | 公益財団法人朝日新聞文化財団  |
| 会場    | 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 <a href="http://www.emuseum.or.jp">http://www.emuseum.or.jp</a>                                     |
| 本展連絡先 | 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)<br>広報担当 大塚 <a href="mailto:kouhou@emuseum.or.jp">kouhou@emuseum.or.jp</a> |

《事前予約不要》混雑時は入場をお待ちいただく場合があります。

## きもの割

会期中、きもの姿でご来館いただくと200円引きでご観覧いただけます！

\*和装（浴衣も含む）の方が対象です。\*他の優待との併用はできません。\*ご本人様のみ対象となります。

## — イベント情報 —

# 古香庵サロン Active+ 「源氏も♡伊勢も！物語絵を紐解く」

『源氏物語』『伊勢物語』をはじめ、平安時代以来、長く紡がれてきた「物語」の数々。早くから絵画や工芸など美術作品の主題ともなり、「物語」と日本美術は深い関わりをもって豊かな文化を築き上げました。

本講座では「物語絵」や「物語意匠」を多くの作例、特に細見コレクションの名品を通して様々な角度から読み解きます。「物語」は絵画化されるプロセスでどのように描かれ、変容してきたのか—平安のサロンさながら、ご参加の方々と語り合いながら「物語絵」の魅力に迫りましょう。

講師：岡野智子(当館上席研究員)

時間：①午後1時～ ②午後3時30分～ (各席 約90分)

会場：茶室 古香庵(当館3階)

定員：各席15名(最少催行人数：10名)

参加費：4,500円

〈友の会〉フレンドシップメンバー3,200円/サポートメンバー・フェローシップメンバー 無料

《展示観覧・季節のお菓子とお抹茶付き》



講師：岡野智子(当館上席研究員)

### ■ 第1回「物語絵を楽しむ ー入門編ー」 2024年4月5日(金)

細見コレクションには「伊勢物語絵」「源氏絵」をはじめ、さまざまな物語絵があり、豊かな絵画表現を楽しむことができます。物語絵の成立と展開を追い、絵巻や屏風に表された物語世界、物語デザインを、具体的な作品を通して鑑賞しましょう。

### ■ 第2回「伊勢物語とその意匠」 2024年6月15日(土)

『源氏物語』の中でも語られる優れた古典文学『伊勢物語』。各段はショートストーリーで、絵画化、意匠化が好んで行われました。バラエティに富む細見コレクションの「伊勢物語絵」を主な手掛かりにその魅力を探ります。

### ■ 第3回「源氏物語とその意匠」 2024年12月13日(金)

物語絵の頂点をなす「源氏絵」。小説の複雑な恋愛関係・人間模様は絵画化されるうちに薄れ、憧れの王朝文化の象徴に変容していきます。江戸時代には婚礼調度など、吉事には欠かせない主題ともなった「源氏絵」「源氏意匠」を、細見コレクションほかの作例に辿りましょう。

### ■ 第4回「琳派と物語絵」 2025年2月1日(土)

宗達以来、琳派の絵師たちは「伊勢物語絵」や「源氏絵」を得意の画題として継承しました。江戸時代における雅な王朝文化への憧憬がその背景にあり、江戸後期の江戸でもその風潮は高まりました。琳派の名品をはじめ、江戸琳派の諸作を通じて人々に愛された物語絵にアプローチします。



← 第2～4回 お申込みフォーム【4月5日(金)より申込受付開始】

<https://forms.gle/ziWojEEVDXV6Tppo8>

細見美術館